

SSKW

海から海へ

No. 31 2012. 7. 16 【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



蝶の宙 Butterflies in the Sky 910x727 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きること貢献することを目的として活動しています。

美術館便り

美術館では春の絵から夏の絵に展示が換わっています。
皆様のお越しをお待ちしています。



理事のみなさんと展示換えを終えて

<展示作品>

黒猫を抱いた私・自転車にのったねこ・花火・さかな
カラーのささやき・カラーのスケッチ・ヨット・バーベ
キュー・線香花火・ブランコのスケッチ・ひまわり・よ
そのねこ・蝶とカーネーション・蝶の宙・鯉

<夏季閉館のお知らせ>

8 月 5、12、19 日(日)は閉館します。8 月 26 日
より、毎週日曜午後 1～5 時 開館します。

「自転車にのったねこ」

「おかえり」。「ただいま」。

小さいときから、自転車がだいすきだったみずき。
小学校 1 年生ですいすいこげるようになりました。

でも、靴をブレーキ代わりにするので、アスファルト
にすれて 1 日で靴はダメになってしまいます。穴の開い
た靴がどんどんたまっていきます。おかあさんは思わず
ため息。

ある日坂道で、おかあさんが後ろからみずきの手をさ
わりました。「ほら、こうしてにぎって」。何度も何度も
練習して、とうとうブレーキをかけられるようになった
のです。

夕陽を浴びたねこがオレンジ色に染まってこっちを見
ています。

「ほら、ちゃんと、一人でブレーキ、にぎれるようにな
ったよ。明日もまた乗るよ」。(*)

「花火」

2000 年夏、新潟県長岡の町は燃えるような暑さでした。
夕方、どしゃぶりの雨。一瞬のうちに花火会場の河原に
は、澄み切った風が吹き始めました。

世界一の大花火がつぎつぎと夜空に咲きます。

ある日、おかあさんはみずきに「長岡の花火を描いて
ほしいな」とたのみました。みずきは顔を上下に軽く振
って見せました。OK!

木炭をもつみずきの手が止まりません。次々と、火の
線が描かれ、白い画面に黒い線の花火があらわれました。

まるでいくつも重なっているかのように見える花火。
みずきは目に映った花火を全部描くつもりだったのかも
しれません。(*)

「さかな」

とぼけた魚の表情が、見る人を笑顔にします。わざわざ
魚辞典で名前を調べ、かわはぎのなかまと教えてもらっ
たこともあります。

2006 年夏、神戸でみずきの絵の展覧会を開きまし
た。ポスターにはこの絵を使いました。

東京へもどる日。トラックに絵のつみこみを終えたと
き、一人の女の人が現れました。「みずきちゃん、私を覚
えているかな」と話しかけられたとたん、「林先生」とみ
ずきが答えました。

走る車の窓から、このポスターを見た林先生は、みず
きの小学校時代の美術の先生でした。

20 年以上、1 度も会わずにいたけれど、おたがいす
ぐにわかった 2 人の画家。

絵の力は画家の力。力は人をひきつけるのです。(*)

「黒猫を抱いた私」

瑞木は猫がだいすき。猫をぎゅっと抱きしめます。そ
のくせはいまも変わりません。

猫は人と話ができませんが、それは本当でしょうか？
猫がだいすきと思う人の気持ちは、猫には伝わると思っ
ます。

自分の心が弱くなったとき、近くにいる動物がそっと
寄り添って、なぐさめてくれることがあります。

自分をなくしてしまいそうになる時、人の代わりにな
って、猫はいのちをかけて守ろうとしてくれます。

猫と瑞木が、だいすき、だいすき、だいすきと話をし
ています。

愛することは、いのちをかけて、いのちをかけて、い
のちをかけてということ。

猫と瑞木が教えてくれました。

(*)「みずきのびじゅつかん」 汐文社 2008

画家の近況

前回のお便りは3月。その後、本法人の総会などが開催され、忙しくしていたこともありましたが、時間を作っては、三浦半島や調布近辺、上州路・越後路、桃狩りの旅をしてきました。

桜の開花が遅れた今春。4月は画家の誕生月。大好物のマグロを食べに三崎港へ行ってきました。



海を見つめる画家と海

まず横須賀市立美術館で「正岡子規の展覧会」を鑑賞した後、三崎港を目指しました。事前に調べておいた店よりも地元の方のお勧め店へ直行。マグロ好きな娘は握りをおいしそうに堪能した様子。誕生日だから、特別にと特製のから揚げを注文。これがまた新鮮でおいしい！

小学校に入るまで、鮭と海苔のご飯しか好物がなかったのが、信じられないくらい、年々食べられるものが増え、今では一口も残しません。周りのみなさんが娘の食べ方をほめてくださるようになりました。「瑞木ちゃんのお皿はきれい!」、と。

5月、画家の弟と連れ合い、ご両親と私たちとで、新緑の深大寺と神代植物園へ行ってきました。深大寺への参詣の後、近くの蕎麦どころで、とてもおいしくておしゃれなランチをいただきました。池のそばで鴨が夫婦で寄り添っているのを見つけ、「仲良きことは善きことかな」と思い、心が温かくなりました。植物園では強い日差しにうろたえながらも、久しぶりの緑陰の小道は爽やかそのものでした。

下旬にもう一度、横須賀市立美術館へ国吉康雄展を。足を伸ばし、葉山にある神奈川県立近代美術館別館へ須田



国太郎展を。どちらも海のそば、建築もロケーションも言うことなし！



初めてのさくらんぼ狩り

6月、上州路・越後路の旅をしました。目的は展覧会の打ち合わせです。最初は沼田でのサクランボ狩り。サクランボといってもさまざまな種類があります。毎年、山形のMさんが送ってくださるのは、佐藤錦の特級品。Mさんご一家とはNHKの世界ハート展で出会いました。Mさんのご長男が書いた詩に、田中瑞木が絵を描き、他の50点と共に世界中を展覧しました。それから12年、毎年初夏においしいサクランボが送られてきます。

さて、初日の宿泊地は湯沢です。6000点ものお土産品が並んでいる

「がんぎどおり」という駅構内で、画家はいつも通りにお土産をしっかりと購入し、ロープウェイに乗り、温泉に入り、日頃の疲れを取りました。



ロープウェイから

翌日も梅雨時とは思えない天候に恵まれ、斉藤清さんの端正な絵画を鑑賞した後、大好きな黒岩秩子さんといっしょの時間を過ごしました。浦佐子ども園では、遠くに八海山を見ながら、回廊式の廊下を走る子どもたちの伸びやかな姿に魅せられました。来年、開催できるようにこれから進めていきます。ご期待ください。

7月、グループホームの仲間と山梨県へ桃狩りの旅に。桃の後はワイナリーの見学、食事、ポツリポツリの雨の中、富士山が姿を現し、みんなを感動させました。不思議ですが、仲間との旅はいつでもいろいろと恵まれます。

瑞木は「ワインを作るところ」が一番良かったとのこと。ワインを飲んだことはないけれど、ワインというのがどのようにして作られるのかを初めて知ったよう。これからワインを見る目が変わるでしょうね。向学心旺盛な娘の一面です。



白い花皿のトウガラシ 2012

TANAKA MIZUKI 田中瑞木展

表現することの喜び

日本描画テスト・描画療法学会第22回大会

2012年9月8日(土)9:00から16:30/9日(日)9:00から19:45

日本大学文理学部 百周年記念館1階 多目的ホール

田中瑞木略歴

- 1973・東京に生まれる。生後1年くらいからしょうがいが見れる
- 1985・絵画教室に通い始める
- 1989・東京都立府中特別支援学校高等部へ入学
 - ・全国学校芸術展にて東京都教育委員会賞受賞
- 1990・全国学校芸術展にて日本美術教育連合賞受賞
- 1995・東京草月ギャラリーにて第3回個展
- 1995・第11回障害者総合芸術展にて最優秀賞受賞
- 1999・富山県富山市にて第7回個展
- 2000・新潟県長岡市にて第8回個展
- 2001・作品「ねこの恵っぱ」、小学校教科書「国語工作」に掲載
 - ・NHK第2回世界ハート展に出品
 - ・TBSテレビ「ニュースの森」で取材
- 2005・神戸市にて第13回個展
- 2007・田中瑞木美術館オープン
- 2009・長野県南牧村にて第15回個展
- 2012・静岡市にて第16回個展

協力 特定非営利活動法人海から海へ 田中瑞木美術館 <http://umi.or.jp>



よそのねこ 1985

2012年9月9日(日)午後1:30～3:50 シンポジウム「描画の源流に立ち返る」にて
しょうがいのある人と描画(阿部愛子)で田中瑞木作品を取り上げます。この機会に是非ご高覧下さい。

個展開催のお知らせ

(1) 日本描画テスト・描画療学会での展覧会
前のページに在りますように、日本描画テスト・描画療学会で、学会開催に関連し2日間だけ、田中瑞木展が開催されます。学会員の方々に観ていただく初めての機会になります。感想をいただくのが楽しみです。

(注：残念ですが、一般の方の入場はできません。)

(2) 音倉での展覧会

「音倉」は歌手 庄野真代さんの音楽とイベント、食事もおいしく提供していただけるお店です。5年前、庄野真代さんと浜田山一が電気通信大学講堂でコンサートを開催してくださいました。田中瑞木美術館を支援するために、ボランティアがあつまり、企画されたイベントでした。今度は田中瑞木展開催です。記念イベントも計画中。詳細は次号で。ご期待ください。

作品掲載のご紹介

公益社団法人日本フィランソロピー協会の機関紙に作品が掲載され、理事長高橋陽子様よりお手紙が届けられました。機関紙に書かれている文章もご紹介いたします。

この度は、『フィランソロピー』へ絵画と原稿のご提供賜り、誠にありがとうございました。お蔭様で、本誌を発行する運びとなり、お送りいたしました。ご高覧いただき、ご意見などを頂戴できれば幸いです。

いつも瑞木さんの絵には感激しますが、今回のチューリップの作品はのびやかで素直な瑞木さんのところが現れていて、見る人を元気にする作品ですね。私も一目見て、ぜひ春の号で掲載させていただきたいと温めておりました。

このような素敵な作品を、ご紹介できましたことを光栄に思います。読者の方々に、この絵を通して人間の可能性の広がりをお伝えできればうれしい限りです。

私どもも中間支援組織としての役割を担いながら、民間の果たす公益をより一層追求していきたいと存じます。まだまだ微力ではありますが、今後とも皆様のご支援ご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。

公益社団法人日本フィランソロピー協会の活動とは

本協会は、民間の果たす公益の主体となる企業や個人の社会参加・社会貢献の実行を通じ、これまで多くの日本人に欠けていた社会参加意識を高め、行政依存ではない、多様な価値観に基づく様々な活動を遂行し、誰もが生き

生きと暮らし、お互いが支えあうことができる国際的にも顔の見える、公正で活力ある豊かなフィランソロピー社会の実現を目指します。

フィランソロピーとは

「語源は、ギリシャ語の「フィリア」(愛)と「アンソロポス」(人類)に由来しており、「人類愛」「博愛」などと訳されています。今日的意義として、「社会貢献」と訳されることが多いようです。

「人を愛する」ことを前提とした社会参加は、人とそして自分との思ひあひがあり、新しい世界が待っているかも知れません。それが結果として社会貢献につながるのではないのでしょうか。

フィランソロピーは私さがしの社会参加から……。」



「チューリップがいいね」

制作：田中瑞木 文章：阿部愛子

「花の絵をたくさん描こう」と娘は花屋さんへ行きました。大好きなピンク色、大事なものを包み込んでいる花びら、まっすぐに伸びる緑の茎。「やっぱりね」と母は思いました。娘のところに一番先に届いた花はチューリップ。日本画のように見えますが油絵です。10本のどれもが天を目指し伸びていこうとしています。娘の心意気が絵になったような感じです。「春ですよ、背筋を伸ばして前に進みましょう」と励ましてくれる絵です。

平成 24 年度会費納入のお願い

新年度になりました。平成 24 年度会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

昨年度は、多くの方々からたくさんのご入金をいただきました。ありがとうございました。

年会費

正会員 3,000 円以上 (活動にご参加いただけます)

協力会員 1,000 円以上 (会報をご購読いただけます)

賛助会 30,000 円以上 (法人様を対象としております)

寄付金 (随時お受けしております)

振込口座

①ゆうちょ振替：00110-0-684539

②銀行振込：みずほ銀行 調布支店
普通預金 8082621

口座名称 (①②とも)

特定非営利活動法人 海から海へ

新役員

5 月 20 日に開催された通常総会で、次の方々が役員に選出されました。

理事長	阿部公輝	副理事長	阿部愛子
理事	粕谷富久代	理事	川口充朗
理事	田中和己	理事	本間俊典
理事	山口ひろみ	監事	田中玲子

任期は 2 年間 (2012 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日) です。
よろしくお願いします。



海から海へ通常総会

平成 23 年度会計報告 (単位：円)

I 経常収入の部	
1. 会費収入	153,000
2. 寄付金収入	394,000
3. 受取利息	156
経常収入合計	547,156
II 経常支出の部	
1. 事業費	
(1) 障がいをもつ人を中心とした芸術活動の支援と作品の公開展示	39,574
(2) 障がいをもつ人を中心とした心理教育社会福祉研究と実践	0
(3) 障がいをもつ人を中心とした交流の促進	39,905
(4) 芸術、教育、心理、福祉などに関する社会教育	0
(5) 障がいをもつ人とその関係者のための個別相談、教育支援、生活支援	0
(6) 活動に関する広報および成果の公表	407,674
(7) (1)～(6)の事業活動のための募金	0
2. 管理費	98,932
経常支出合計	586,085
経常収支	△ 38,929
前期繰越	999,382
次期繰越	960,453

編集後記

この 3 月、職場を定年退職しました。38 年間仕事をして分かったことは、学校では生徒や学生が主役であること、彼らは社会に何が足りないかを教えてくれる私たちの先生だということでした。退職後は、社会福祉士・精神保健福祉士の資格を生かした援助の仕事も始めていますが、そこでも、援助を必要としている人は、この社会に何が足りないかを教えてくれる先生です。もっとも大切なことは、相手から聴き、相手から教えてもらうこと。家族との日々の暮らしから学んだことです。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

2012 年 7 月 16 日 海から海へ No. 31

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200 円

無断転載禁止